

北陸新幹線関係

埋蔵文化財包蔵地調査報告(6)

水橋入部遺跡
水橋上砂子坂遺跡
砂子坂遺跡
早月上野遺跡

2006年3月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

序

北陸新幹線は、現在工事が進められています。

当埋蔵文化財調査事務所では、北陸新幹線建設計画に伴い、平成8年度から日本鉄道建設公団（現、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構）の委託を受け、新幹線建設予定地内の埋蔵文化財包蔵地について、その範囲等の確認調査を実施しています。今年度は、富山市内の2箇所と上市町の1箇所、魚津市内の1箇所で包蔵地確認調査を実施しました。

本書は、富山市水橋入部遺跡、水橋上砂子坂遺跡、上市町砂子坂遺跡、魚津市早月上野遺跡における遺跡の範囲や時代、遺構と遺物の遺存状態を把握するために実施した包蔵地確認調査の結果をまとめたものです。この調査の成果が今後の発掘調査と研究の一助になれば幸いです。

最後に、今回の調査にあたり格別のご協力とご配慮をいただいた関係各位に深く感謝申し上げます。

平成18年3月

財團法人富山県文化振興財團
埋 藏 文 化 財 調 査 事 務 所
所長 桃 野 真 見

例　　言

- 1 本書は平成17年度に富山市水橋入部遺跡、水橋上砂子坂遺跡、上市町砂子坂遺跡、魚津市早月上野遺跡で実施した埋蔵文化財包蔵地の確認調査報告書である。
- 2 調査は富山県教育委員会の決定に基づき、財團法人富山県文化振興財団が独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（鉄道・運輸機構）からの委託を受けて実施した。
- 3 調査は財團法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所が実施した。調査員は次の通りである。
主任 森 隆（調査第二課）、文化財保護主事 町田賢一（調査第一課） 杉山大晋（同）
埋蔵文化財技師 藤本信幸（調査第二課）
- 4 本書は、森がⅠ、Ⅱ、Ⅲ-3-(3)出土遺物：縄文石器、Ⅳを、町田がⅢ-3-(3)出土遺物：縄文土器を、それ以外は藤本が執筆し、編集は森が担当した。
- 5 出土遺物及び記録資料は、埋蔵文化財調査事務所が一括して保管している。
- 6 なお早月上野遺跡の現地調査に際して、また出土した縄文土器・石器について、魚津市教育委員会の真柄一志氏より貴重なご助言を賜った。記して感謝申し上げたい。

目　　次

序	
例言	
目次	
I 位置と環境	1
II 調査の経緯	1
III 調査の結果	4
1 富山市水橋入部遺跡	4
2 富山市水橋上砂子坂遺跡・上市町砂子坂遺跡	4
3 魚津市早月上野遺跡	5
IV 小結	9
引用・参考文献	9
(付) 自然科学分析結果	15
図面	
写真	
報告書抄録	

I 位置と環境

本年度包蔵地確認調査を行ったのは、富山市内に所在する水橋入部遺跡、水橋上砂子坂遺跡、上市町所在の砂子坂遺跡、魚津市所在の早月上野遺跡の4箇所である。これらの各調査地のうち水橋入部遺跡は常願寺川右岸に接する標高12m前後の低地に所在する。また水橋上砂子坂遺跡・砂子坂遺跡は、水橋入部遺跡の北東側約4kmほど離れた、上市川の左岸に近い位置にある。海岸から3km程離れた標高10m弱の低地に立地する。常願寺川右岸から白岩川・上市川にかけての低地沿いは遺跡の密集地帯で、今回調査した3遺跡以外にも、水橋金広・中馬場遺跡（縄文・古墳・古代～近世）、若王子古墳、宮塚古墳、奈良・平安時代の官衙関連遺跡である水橋荒町・辻ヶ堂遺跡などが所在する。一方魚津市早月上野遺跡は、早月川の形成した段丘面上、現河川から一段高い標高70～80mの台地上に位置する。早月上野遺跡は県内でも古くから縄文時代の遺跡として知られており、呉東地域の代表的な縄文集落遺跡として知られる。過去に実施された調査では、主に縄文中期から晩期にかけての遺構・遺物が出土している。また昭和50年のスーパー農道建設に伴う発掘調査では、縄文時代の遺構面のさらに下層から旧石器時代の石器群が出土している。

II 調査の経緯

昭和60年、北陸新幹線ルートが発表され、日本鉄道建設公団（現、鉄道・運輸機構）の依頼をうけて、昭和60年・平成7・14年に富山県教育委員会文化課（現、文化財課）と富山県文化財センターによって建設予定地内の分布踏査が実施された。それにより周知の遺跡を含めて県東部に19箇所、県西部に11箇所の埋蔵文化財包蔵地が確認された。北陸新幹線建設に先立ち用地内の埋蔵文化財包蔵地の確認調査の要望が寄せられ、日本鉄道建設公団と県文化財課の協議の結果、富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所に調査を依頼することになった。これを受け、平成8年度には小矢部市下川原遺跡の調査を実施した。平成11年度以降は、県東部から包蔵地確認調査を順次実施しており、平成13年度、新黒部・富山間の工事認可が下りるとともに、工事着工の急がれる新黒部以東においては、柳田遺跡、下山新東遺跡、若栗中村遺跡、舌山遺跡、竹ノ内Ⅱ遺跡などの発掘調査を実施している。

本年度埋蔵文化財包蔵地調査を実施したのは、富山市水橋入部遺跡、水橋上砂子坂遺跡、上市町砂子坂遺跡、魚津市早月上野遺跡の2市1町4カ所の調査地である。以下に平成17年度に実施した包蔵地確認調査の概要を記す。

・調査結果・覧

遺跡名	調査期間（実働日数）	対象面積	掘削面積	遺跡の有無
水橋入部遺跡	H17.10.14（1日）	900m ²	45m ²	無
水橋上砂子坂遺跡	H17.10.20（1日）	530m ²	60m ²	無
砂子坂遺跡	H17.10.17～10.20（4日）	9,200m ²	420m ²	無
早月上野遺跡	H17.11.7～11.18（10日）	19,000m ²	980m ²	東側半分に縄文時代集落



第1図 調査遺跡位置図



第2図 富山市水橋入部遺跡位置図



第3図 富山市水橋上砂子坂遺跡・上市町砂子坂遺跡位置図



第4図 魚津市早月上野遺跡位置図

III 調査の結果

1. 富山市水橋入部遺跡

(1)調査方法

幅2m、長さ10mの試掘トレンチ（略号T）を2カ所設定した。調査対象地の現況は駐車場であり、水田を造成し地表面は簡易舗装を施している。このため調査に先立ち、この簡易舗装を除去する作業から着手した。次いで試掘トレンチの掘削となるが、対象地の中央に沈殿槽があるため、2m×10mの東西2本のトレンチを設定した。トレンチは東側がT1、西側がT2となる。調査は、表土及び遺構検出面になるとみられる層まで重機（バックホー）により掘削をおこない、遺構・遺物の有無を確認した。調査面積は45m²である。

(2)調査結果

T1：層序は上から、I層：現況地盤であるアスファルト・碎石層や暗褐色砂層等で造成された盛土（厚約1m）、II層：旧耕作土と考えられる暗褐色粘質土層（層厚約20cm）、III層：黄褐色粘質土層（層厚約50cm）、IV層：灰色砂層（層厚約10cm）、V層：黒褐色粘質土（層厚約40cm）・黒色粘質土であった。トレンチの底面から湧水がみられた。遺物・遺構の検出はなかった。

T2：I層：アスファルト・碎石等で造成された盛土（層厚約1m）、II層：T1と同じ、III層：T1と同じ。直下にV層の黒色粘質土（層厚約30cm）が続き、以下に灰色砂層（層厚約10cm）・黒褐色粘質土層（腐植土）の互層となる。遺物・遺構の検出はなかった。

2. 富山市水橋上砂子坂遺跡・上市町砂子坂遺跡

(1)調査方法

東側の竹鼻の現集落から西側の県道までの約500mが調査対象地となる。二つの遺跡を同時記載したのは、西端部のみ富山市の上砂子坂遺跡となるためだが、両者の境界は小さな水路一本しかなく、遺跡の境界自体は行政上の区別にしか過ぎない。このため記述の便宜をはかるため、両遺跡を一括して取り扱った。トレンチは東側からT1、T2…とし、合計8本のトレンチを設定した。このうちT1～T7は上市町砂子坂遺跡に含まれ、最西端のT8のみが富山上砂子坂遺跡の範囲となる。なお富山上砂子坂遺跡の中心はT8試掘トレンチに接する県道のさらに西側一帯にあり、今回の試掘調査地は遺跡最東端部に位置する。従って以西の遺跡本体部分の試掘調査は次年度以降に実施する予定である。なお今回の試掘トレンチT1～T8を設定した現況の水田はかなり低湿な状態で、とくに重量のある機械の進入が困難である場合が多くみられた。調査面積は砂子坂遺跡が420m²、水橋上砂子坂遺跡が60m²、総計で480m²となる。

(2)調査結果

調査対象地の現況は水田である。調査地の概ねの基本層序はI層：現況である水田の耕作土、II層：ほ場整備に伴うと思われる盛土、III層：灰色・黄褐色砂、IV層：灰色粘質シルト、V層：黒褐色粘質土、VI層：にぶい黄色粘質シルト・灰色砂となる。このうちII～VI層はトレンチによって堆積しない層もみられたが、総観すると砂層や灰色系粘質シルトと黒褐色系粘質土の互層により構成され、幾度もの河川の氾濫・溢水時期と、植物繁茂の渇水時期との両者によって形成されたと考えられる堆積状

況が確認できた。とくに全てのトレンチにおいてⅢ層以下からは壁面より水が多く染み出し、トレンチ底面からも激しい湧水がみられた。以下に各トレンチの掘削時の所見を記す。

上市町砂子坂遺跡

T1：I層：耕作土。（層厚約20cm）、Ⅲ層：トレンチ東端では黄褐色砂を含む灰色シルトがみられるが、西に行くにつれ黄褐色砂の堆積が厚みを増し、トレンチ中央付近から西端では黄褐色砂のみ（層厚約60～80cm）となる。V層：黒褐色粘質土（層厚約40cm）、VI層：灰色粘質シルト。V、VI層は共に植物遺体を多く含んでいた。遺物・遺構の検出はなかった。

T2：I層：現耕作土（層厚約20cm）、II層：灰オリーブ色粘質土の盛土（層厚約50cm）、III層：T1から続く黄褐色砂（層厚約30cm）。トレンチ東半ではI層直下がⅢ層だが、中央付近～西端では削平されI層直下が盛土。IV・V層は色相の変化はみられるがT1と同様の堆積がみられた。トレンチ中央付近から西端部では、VI層：にぶい黄色粘質シルトが確認された。遺物・遺構の検出はなかった。

T3：I層：現耕作土（層厚約20cm）、II層：オリーブ黒色粘質土などの盛土（層厚約40～60cm）、III層は確認されなかった。IV層：灰色粘質シルト。トレンチ中央付近～西端において盛土直下にみられ、深度約1.8mのトレンチ底面を超えて厚く堆積する。V層：オリーブ黒色粘質土（腐植土）。トレンチ東部で盛土直下に確認されトレンチ底面を超えて堆積し、西へと下がっていく。遺物・遺構の検出はなかった。

T4：I層：現耕作土（層厚約20cm）、II層：オリーブ黒色粘質土などの盛土（層厚約20cm）、III層：黄褐色砂（層厚約50cm）トレンチ西端部においてみられた。IV層：T3から続く灰色粘質シルト（層厚約80cm）、IV層以下はV層のオリーブ黒色と混じり合った灰色粘質シルトが続く。IV層はトレンチの大部分において盛土直下にみられるが、西にいくにつれてシルト質を強め、トレンチ西端においてIII層の砂層へと堆積が変化していく、漸次的な自然堆積の様相がみられた。II層において古代の土師器が微量出土したが、いずれも細片で、ほ場整備に伴う客土に混入し、他の場所よりもたらされたと思われる。遺構の検出はなかった。

T5：I層：現耕作土（層厚約20cm）、II層：オリーブ黒色粘質土などの盛土層（層厚約20cm）、III層：灰色砂層（自然木などの植物遺体含む）が深度約1.2mのトレンチ底面を超えて堆積する。遺物・遺構の検出はなかった。

T6：T5と同じ層序。遺物・遺構の検出はなかった。

T7：I層：現耕作土（層厚約20cm）、II層：オリーブ黒色粘質土などの盛土層（層厚約20cm）、III層：にぶい黄色砂（層厚約30cm）、IV層：灰色粘質シルト、V層：黒褐色粘質土、VI層：灰色砂。遺物・遺構の検出はなかった。

富山市上砂子坂遺跡

T8：トレンチ東半ではT7と同じI～V層がみられるが、西へいくにつれII層が厚みを増し（約50cm）、西端ではII層直下にV層となる。遺物・遺構の検出はなかった。

3. 魚津市早月上野遺跡

(1)調査方法

①調査方法と面積

早月上野遺跡は、遺跡の西側を流れる早月川と東側の角川によって形成された段丘面上にある。東側三分の一ほどが一段低く低位段丘面となり、西側が一段高い中位段丘面となる。標高は低い部分で

海拔70m、高い部分で80mを数える。北側に富山湾を望む眺望が開ける台地上に位置する。調査対象地は幅約20m、長さ約2kmにわたって、台地上をちょうど東西に横断している。この新幹線の計画路線は、当初は台地中央付近に位置する墓地を境に東側をトンネル工法、西側を開削工法としたが、その後全て開削工法に計画変更された。このため当初の対象面積は西側のみの9,600m²であったが、計画変更に伴い東側部分を含む台地上の全線が対象となり、対象面積も19,000m²とほぼ倍増した。

付近の現況は水田であるが、県道を挟んで東側中央付近と、西側の台地西端付近には場整備がすでに施工されている。但しは場整備に先立つ埋蔵文化財の試掘調査が昭和57年に魚津市教育委員会によって実施され、報告書も刊行されている。報文によると遺跡範囲のはば中央に位置する上野神社から東側一帯で縄文時代の集落跡が広範囲にみつかっている。今回の調査対象地もこの範囲内に一部が含まれている。なおは場整備施工時には、この時の試掘調査結果を踏まえて盛土や保護砂等による遺跡保存の処置が取られている。また南側に隣接するスーパー農道の建設に伴う発掘調査でも縄文・古代・中世の遺構・遺物がみつかっている。発掘調査は昭和51年に富山県教育委員会によって実施されている。この調査において遺構面の地山のさらに下層で旧石器時代の石器群が検出されている。

試掘調査は、対象地の過半では場整備が実施され、農道等が整備されていた関係上、比較的機械による水田内への侵入・掘削が容易であった。但し上記の隣接調査地の発掘調査成果からもわかるように、調査対象地内には旧石器時代の遺跡が所在する可能性がある。このため機械掘削以外にも、石器出土の可能性があるトレントの地山層については、作業員による人力掘削を実施した。トレントは当初対象地東端から西端までT1~T19の19本を設定したが、その後地元との協議のなかでT3トレントを設定した田が来年度も休耕せずに耕作することが明らかとなり、この部分については今回の試掘の対象からは除外した。従ってT3トレントは欠番となる。また墓地部分についても当初調査対象から除外していたが、北側に隣接する田が来年度休耕対象となったこともあり、墓地の北辺に隣接して試掘トレントを新たに設定(T20トレント)した。またT1とT2トレントの間の水田についても、調査終了間に小規模な補足トレントを設定しこれをT21とした。調査面積は総計で980m²である。

なお旧石器時代の石器群が検出される可能性を踏まえて、全試掘トレントを対象に、旧石器時代の遺物が含まれると考えられる火山灰層(AT)の同定、および試掘トレント全体の堆積土層の理化学的分析を外部業者に依頼した。

(2)調査結果

調査対象地の現況は水田耕作地である。標高は東側のT1が標高約72m、西側のT19が約80mを測り、T18地点が最も標高が高く約82mとなっている。基本層序はは場整備時の削平の程度により異なるが、堆積層の残りの良いトレントで以下のようになる。基本的な層序は、耕作土(Ia層)・は場整備時の盛土(Ib層)・黒色粘質土(II層)・明褐色粘質土(地山:III層)・明褐色砂礫土(地山:IV層)である。とくにT2~T10間ではII層から中期中葉~晩期末葉の縄文土器・石器が多数出土し、縄文時代の遺物包含層となっている。同様にT2~T10間では縄文時代の遺構が多数検出された。遺構は土層断面の観察によると、III層(地山層)の上面ではなくII層の途中に切り込み面がある。このことから本来の縄文時代の遺構面はII層の黒色粘土層上面にあることが予想されるが、この黒色土の上面がその後の水田の開拓で攪乱され、混ぜ返された黒色土中に遺物が多数含まれた結果、遺物包含層が形成されたものと考えられる。従って下層黒色土からの出土遺物は、正確には包含層起源のものではなく、堅穴住居等の遺構内からの出土遺物と捉えるべきである。なおII層が削平を受けたT2・T10ではIII層上面で遺構を検出したが、基本的にIII層上面は遺構確認面であり、本来の遺構切り込み面で

はないことを強調しておく。以下に各トレンチの層序の概要を簡単に記す。

T1：耕土・盛土・Ⅲ層からなる。遺構は検出されなかった。出土遺物なし。層厚：耕土約30cm、盛土約10cm。

T2：耕土・盛土・Ⅲ層からなる。遺構は、Ⅲ層上面にて縄文時代の石臼炉、ピット状遺構など。層厚：耕土約30cm、盛土20cm。

T4：耕土・盛土・Ⅱ層・Ⅲ層からなる。Ⅱ層中にて縄文時代の石臼炉、集石遺構、土坑等を多数検出した。層厚：耕土約30cm、盛土約20cm、Ⅱ層約40cm。

T5：耕土・盛土・Ⅱ層・Ⅲ層からなる。Ⅱ層中にて焼土を埋土とする土坑をはじめ土坑多数、溝1条、縄文時代の竪穴住居を検出した。層厚：耕土約30cm、盛土約30cm、Ⅱ層約40cm。

T6：耕土・盛土・Ⅱ層・Ⅲ層からなる。Ⅱ層中にてピット状遺構、土坑を検出。層厚：耕土約30cm、盛土約50cm、Ⅱ層約30cm。

T7：耕土・盛土・Ⅱ層・Ⅲ層からなる。Ⅱ層中にて縄文土器を埋設する土坑3基や焼土を埋土とする土坑など多数、竪穴住居1棟を検出した。層厚：耕土約40cm、盛土約40cm、Ⅱ層約40cm。

T8：耕土・盛土・Ⅱ層・Ⅲ層からなる。Ⅱ層中にて焼土が埋土上の土坑、炉跡、土坑を検出。層厚：耕土約30cm、盛土約30cm、Ⅱ層約40cm。

T9：耕土・盛土・Ⅱ層・Ⅲ層からなる。Ⅱ層中にて縄文時代の竪穴住居に伴う貼り床と考えられる堆積や、住居址に付随した石臼炉、土坑などを検出した。層厚：耕土約20cm、盛土約20cm、Ⅱ層約40cm。

T10：耕土・盛土・Ⅱ層・Ⅲ層からなる。Ⅲ層にて土坑、落ち込み、溝を検出した。層厚：耕土約20cm、盛土約10cm、Ⅱ層約30cm。

T11：耕土・盛土・Ⅱ層・Ⅲ層からなる。遺構は検出されなかった。Ⅲ層から縄文土器数点が出土。層厚：耕土約20cm、盛土約10cm、Ⅱ層約30cm。

T12：耕土・盛土・Ⅲ層からなる。遺構は検出されなかった。遺物なし。層厚：耕土約20cm、盛土約10cm。

T13：耕土・盛土・Ⅱ層・Ⅲ層からなる。トレンチ中程から東へと落ち込む谷状地形を検出し、この谷の埋土（Ⅱ層）から縄文土器数点が出土した。層厚：耕土約30cm、盛土約20cm、Ⅱ層約40cm。

T14：耕土・Ⅳ層からなる。このトレンチはは場整備時の削平により、Ⅲ層の明褐色粘質土が残存せず、耕作直下に明褐色砂礫層（Ⅳ）となる。遺物なし。層厚：耕土約30cm。

T15：耕土・Ⅲ層からなる。耕作直下明褐色粘質土、遺物なし。層厚：耕土約20cm。

T16：耕土・盛土・Ⅱ層・Ⅲ層からなる。トレンチ西端で調査区外へと伸びる深さ約10cmを測る土坑（埋土はⅡ層）を1基検出した。1／4ほど掘削したが遺物の出土はなかった。トレンチ東半部は近現代の土管が埋設されており広範囲に擾乱をうけている。遺物なし。層厚：耕土約20cm、盛土約20cm、Ⅱ層約40cm。

T17：耕土・盛土・Ⅱ層・Ⅲ層からなる。遺構の検出はなかった。I～II層から縄文土器数点出土。層厚：耕土約20cm、盛土約40cm、Ⅱ層約10cm。

T18：耕土・盛土・Ⅱ層・Ⅲ層からなる。遺構の検出はなかった。I～II層から縄文土器数点出土。層厚：耕土約20cm、盛土約60cm、Ⅱ層約40cm。

T19：耕土・盛土・Ⅱ層・Ⅲ層からなる。遺構の検出はなかった。I～II層から縄文土器数点出土。層厚：耕土約20cm、盛土約10cm、Ⅱ層約20cm。

T20：耕土・盛土・Ⅱ層・Ⅲ層からなる。遺構の検出はなかった。層厚：耕土約20cm、盛土約10cm、Ⅱ層約20cm。

T21：耕土・盛土・Ⅲ層からなる。遺構の検出はなし。層厚：耕土約20cm、盛土約30cm。

(3)出土遺物

今回の試掘調査では古代の土師器・須恵器・黑色土器、近世の越中瀬戸なども出土しているが、主体となるのは縄文時代の土器、石器である。とくにT2～T10トレーニングでは堅穴住居等の遺構が密に検出されており、出土遺物もこれらの遺構群に直接伴うものと考えられる。以下に出土遺物の概略について記しておく。

縄文土器(写真8)：出土した土器には、縄文時代中期中葉～晩期末葉までの時期幅がある。このうち遺構又はその付近から出土した土器は、後期中～後葉と晩期末葉を主体としている。

1～13は、後期の土器。1は、注口十器で直立気味の口縁部に丸い胸部が付く。文様は、肩部に粘土紐貼り付け後刺突、胸部に曲線文で区画した内部に縄文を施す。2は、波状口縁の深鉢で波頂部を欠損する。文様は、口縁外側に沈線区画内をR Lの斜縄文、口縁端部に刻み、口縁内側に2条の平行沈線を施す。金沢市馬替遺跡に類例がある。3は、波状口縁で装飾の強い波頂部。文様は、内外面共に幅広の沈線で捺円や曲線を描き同じ工具で刺突する。南砺市五百歩遺跡に類例がある。4は、注口土器の頸部～胴部でいわゆる瘤付土器。5は、深鉢の胴部。文様は、沈線文で区画した内部に細かい縄文やJ字状の沈線文を施す。6は、注口土器か。文様は、頸部～胴部に平行沈線と渦巻文、その下に斜縄文を施す。7は、ハの字状に聞く粗製の鉢。8は、舟形。文様は、外側全体に及び、沈線2条を十字に入れて4分割し、それぞれに三日月の沈線文を1対施す。沈線内には、縄文を施している。9・10は、注口土器の注口部。11は、気屋式の深鉢。文様は、口縁部に三角刺突文、胴部に縱縄文を施す。12は、気屋式の深鉢。文様は、口縁～胴部に縄文帯を施す。13は、浅鉢の口縁部。文様は、捺円形の沈線区画に列点文を施す。土器の時期は、1・2・4が後期中葉の加曾利B式併行期、他が後期前葉の気屋式期になろうか。

15～18は、中期の土器。15は、串田新式の双頭波頂部。16～18は、上山田～古府式の破片。16は、口縁部に半隆起線を2条施す。17・18は、渦巻文等を施すもの。

14・19～25は、晩期の土器。14は、口縁端部に突起を付ける浅鉢。19は、ハの字状の口縁をもつ条痕深鉢。20は、精製の深鉢で胴部に羊齒状文の崩れたような文様を施す。21は、縦条痕の深鉢で口縁端部と同じ工具で刻む。22は、口縁部に縦条痕の後押引列点文、口縁端部に押引状の刺突を施す深鉢。朝日町境A遺跡に類例がある。23は、口縁部に条痕で連弧文状とし、その下に指頭沈線2条と斜条痕を施す深鉢。24・25は、筒形。24は、底部で沈線文の後に赤彩する。底面は、網代旗が残る。高岡市下老子鶴川遺跡に類例がある。25は、口縁部と胴部に平行沈線を施し、赤彩する。外側には、炭化物が付着する。土器の時期は、14・19・20が晩期中葉中屋式併行期、21・22が晩期後葉下野式併行期、23～25が晩期末葉長竹式併行期となろう。

縄文石器(写真9)：1は安山岩製の打製石鏃である。2・3・8・9は鉄石英の縦長剥片。9は大型の剥片で下端を折損するが、主要剥離面の右側縁に沿って細かなリタッチがみられる。4～6・10は石核残渣。石材は4が瑪瑙。5は質が良く他地域からの搬入と考えられる黒曜石、6は在地産の質の悪いタール状の黒曜石。10は鉄石英の石核で、大型だが質が悪く途中放棄されたもの。7は小型のビエス・エスキュー(楔形石器)である。11～19は磨製石斧で、基部ないしは刃部先端のどちらかが折損したものばかりで、完存するものはみられない。法量も小型の11から大型の13まで各種みられる。

材質は蛇紋岩を主体とする。20~23は石剣・石刀である。いずれも峰と刃からなる断面の形状を有す。24は石冠で上面の突起部を欠失する。材質は砂岩。25は大柄のピエス・エスキュー。一端を折損する。26~30は打製石斧で短冊形、洋梨型などの形態がある。31~34は筋砥石で、並行して連続する凹線上の溝がみられる。35は疊石錘で、一端に魚網結束用の打ち欠きがみられる。36は叩石で、円錐の全周に叩打痕が残る。37は雀み石である。なお今回の試掘調査で出土した石器資料では、明確に旧石器時代に属するものは認めがたい。

IV 小結

以上の調査結果をまとめると以下のようになる。

(1) 富山市水橋入部遺跡

遺構・遺物なし。昨年隣接調査地で古代の旧河道を検出したが、今回の調査では古代集落等の遺構・遺物は検出されなかった。本調査の必要なし。

(2) 上市町砂子坂遺跡・富山市水橋上砂子坂遺跡

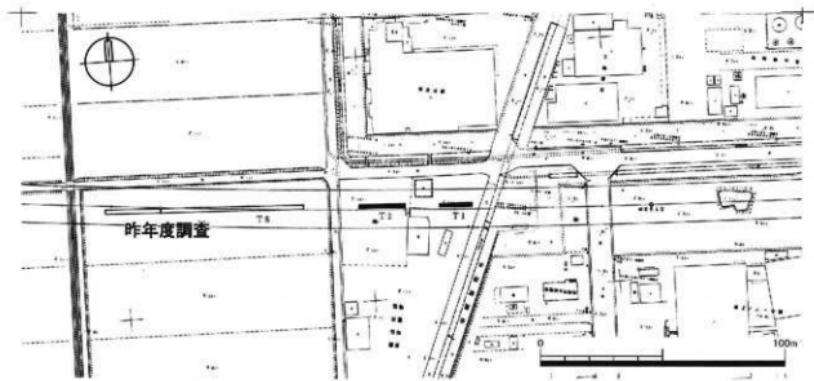
遺構・遺物なし。調査地付近一帯はかつて低湿地であったと考えられる。本調査の必要なし。

(3) 魚津市早月上野遺跡

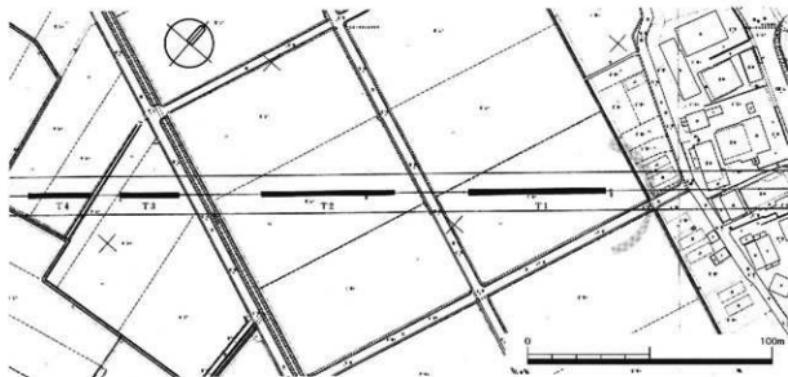
調査対象地の東側、T2からT10までの間、約300mの地域において、縄文時代の集落を検出した。これらの試掘トレンチからは竪穴住居、石組み炉、土器埋設遺構、土坑、溝など多数の遺構を検出した。出土遺物としては縄文土器や石器の他に古代の土師器、須恵器、黑色土器、近世の越中瀬戸などが出土した。このうち縄文土器には縄文時代中期から晩期に至る各期のものがみられる。石器には打製石斧、磨製石斧、石鎚、筋砥石、叩石、円石、石剣、石冠などがある。なお調査地東端のT1-T20トレンチ、およびT11より以西のトレンチについては出土遺物も微少であり、遺構も検出されていない。従って前述のようにT2~T10トレンチ間約300mの区間、平面積にしておよそ7,600m²が本格調査の対象となる。

(引用・参考文献)

- ・財団法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所「北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査(1)~(3)」2000~2005
- ・財団法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所「埋蔵文化財調査概要 平成13年度~16年度」2002~2005
- ・財団法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所「埋蔵文化財調査年報 平成13年度~16年度」2002~2005
- ・富山県教育委員会「早月上野遺跡第1次緊急発掘調査概報」1975
- ・富山県教育委員会「早月上野遺跡第2次緊急発掘調査概報」1976
- ・魚津市教育委員会「早月上野遺跡」1982・1983
- ・小林達雄他「縄文上器大観 第4巻 後期 晩期 純縄文」小学館1989
- ・富山県教育委員会「北陸自動車道遺跡調査報告~朝日町編7~境A遺跡総括編」1992
- ・縄文セミナーの会「後期後半の再検討」2001
- ・縄文セミナーの会「後期前半の再検討」2002
- ・能登町教育委員会・真鶴遺跡発掘調査団「石川県能都町 真鶴遺跡」1986
- ・財団法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査企画事務所「第1分冊 縄文時代編」「下老子佐川遺跡発掘調査報告」2006
- ・金沢市教育委員会「金沢市馬籠遺跡」1993
- ・福野町教育委員会「安居・五百歩遺跡I(縄文時代編)」1990

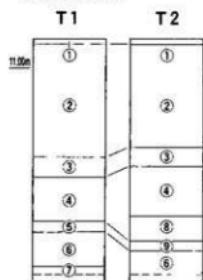


第5図 水橋入部遺跡試掘トレンチ配置図



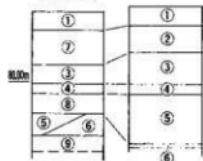
第6図 水橋上砂子坂遺跡・砂子坂遺跡試掘トレンチ配置図

水橋入部遺跡

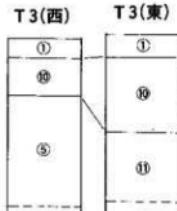


- ①アスファルト
- ②盛土（造成土）
- ③暗褐色粘質土層（旧耕土）
- ④黃褐色粘質土層
- ⑤灰色砂層
- ⑥黒褐色粘質土層
- ⑦黑色粘質土層
- ⑧黑色粘質土層
- ⑨灰色粘質土層

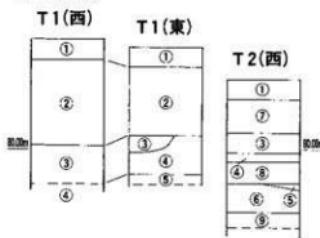
T2(中)



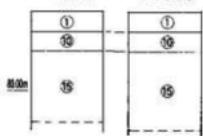
T2(東)



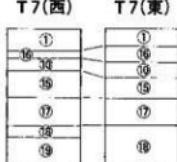
砂子坂遺跡



T6(西)

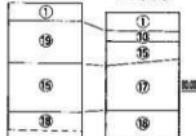


T6(東)



上砂子坂遺跡

T8(西)



T8(東)



- ①耕作土層
- ②灰色砂層と灰色シルト層の互層
- ③暗灰色粘質土層（腐殖土）
- ④黒褐色粘質土層
- ⑤灰色粘質シルト層
- ⑥黒褐色粘質シルト層
- ⑦灰オーリーブ色粘質土層（盛土）
- ⑧灰色シルト混灰色砂層
- ⑨にぶい黄色粘質土層
- ⑩オリーブ黑色粘質シルト層（盛土）

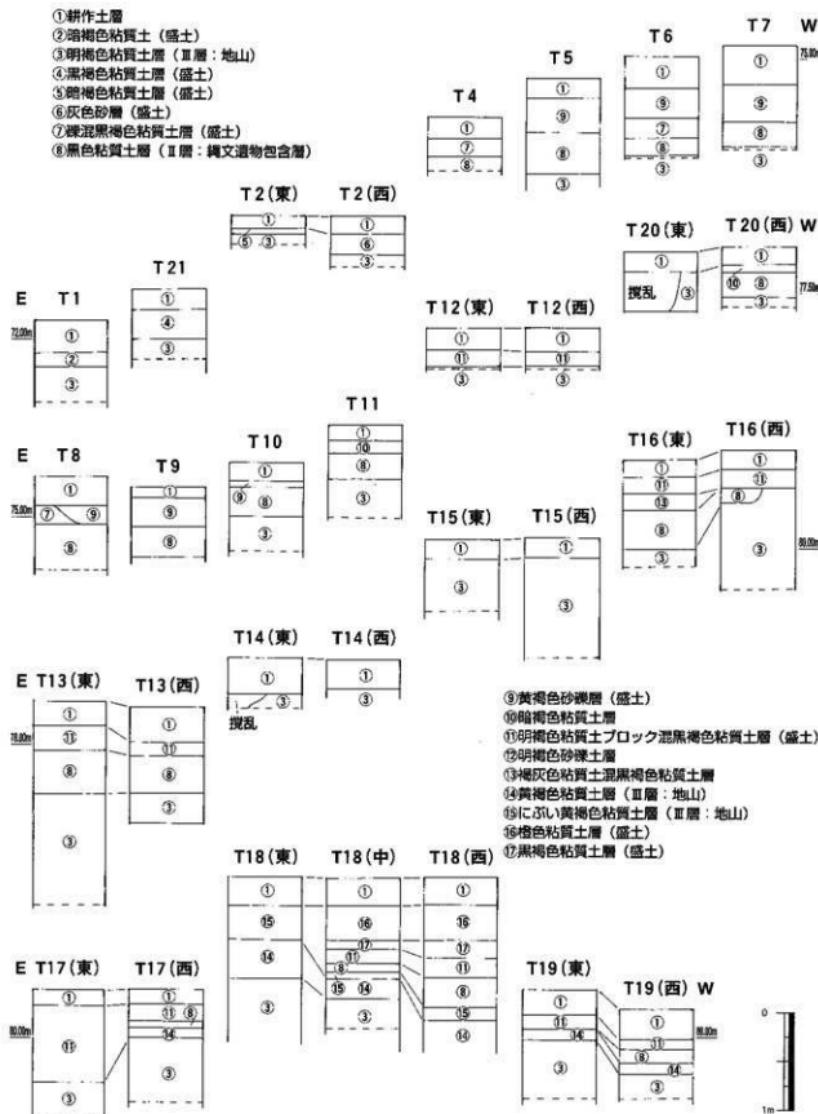
- ⑪オリーブ黑色粘質シルト層（腐殖土）
- ⑫オーリーブ黑色粘質シルト混灰色粘質シルト層
- ⑬黄褐色砂層
- ⑭黄褐色粗砂層
- ⑮灰色砂層
- ⑯暗灰色粘質シルト層
- ⑰灰色粘質シルト層
- ⑱オーリーブ黑色粘質シルト層
- ⑲灰色シルト混灰色砂層

第7図 水橋入部遺跡・水橋砂子坂遺跡・上砂子坂遺跡トレンチ土層断面柱状模式図

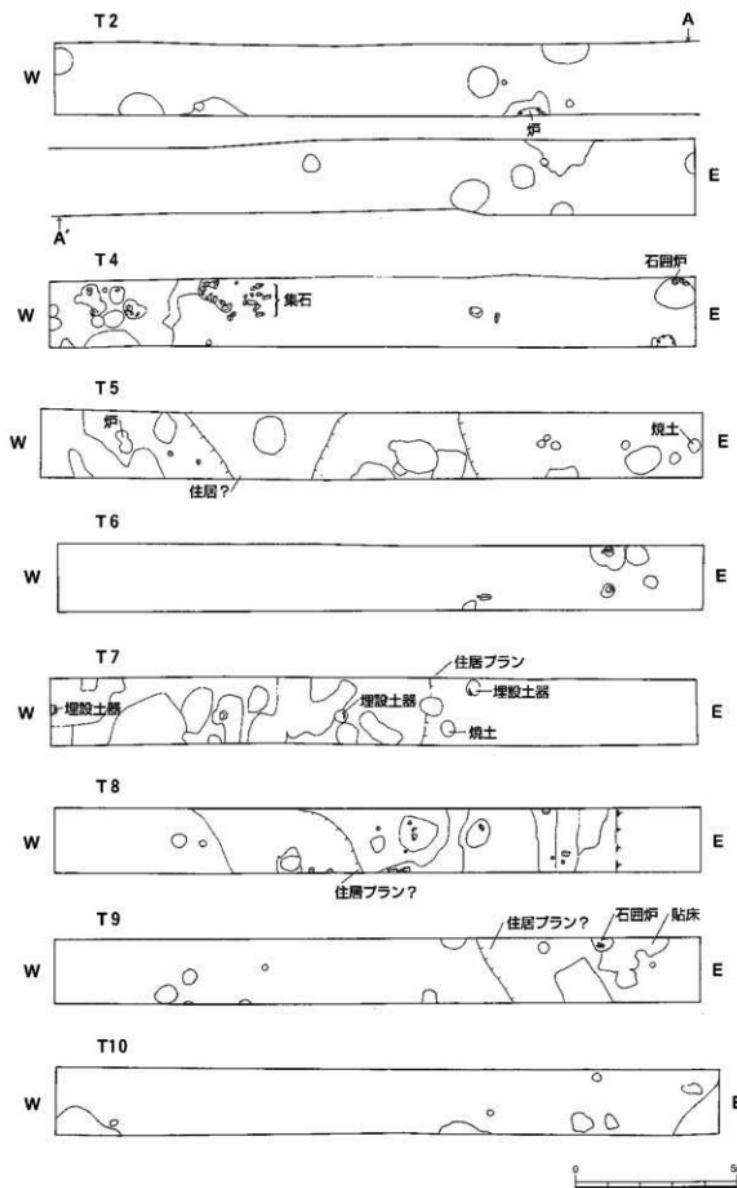


第8図 早月上野遺跡試掘トレンチ配置図

- ①耕作土層
 ②暗褐色粘質土（盛土）
 ③明褐色粘質土層（Ⅲ層：地山）
 ④黒褐色粘質土層（盛土）
 ⑤暗褐色粘質土層（盛土）
 ⑥灰色砂層（盛土）
 ⑦疊混黑褐色粘質土層（盛土）
 ⑧黑色粘質土層（Ⅱ層：縄文遺物包含層）



第9図 早月上野遺跡トレンチ土層断面柱状様式図



第10図 早月上野遺跡検出造構平面図

はじめに

早月上野遺跡包蔵地調査の行われた範囲は、富山平野北東部を流れる早月川下流域の右岸に形成された河成段丘上に位置する。この付近の河成段丘については、中村・金（2004）により、段丘表層に堆積する褐色土（いわゆるローム層）中のテフラ（火山灰）の産状が確認され、最も高位の東福寺野面は14~16万年前、中位の中野面は10~11万年前、低位の大崎野面は5~6万年前にそれぞれ形成されたと考えられている。

今回の調査区の位置する段丘は、その地形と標高から、大崎野面に対比されると考えられ、さらに、調査区の西部は、人工改変が及んでいるものの、東部より一段高い地形を呈しており、この範囲は中野面に対比される可能性がある。いずれにしても、段丘表層のローム層は、新しくとも5~6万年前より形成が開始された可能性が高い。したがって、調査区においては、その上層中より旧石器時代の遺構・遺物が検出される可能性がある。この場合、旧石器時代の土層の年代を知る手がかりとしては、これまで、日本全国各地の旧石器出土層位で確認されているテフラ層である始良Tn火山灰（AT：町田・新井、1976）の降灰層準がある。ATは、細粒の火山ガラスからなるテフラであるが、富山平野の河成段丘におけるローム層中には、テフラ層として認められることはほとんどない。そのため、ATの確認には、ローム層中より火山ガラスを抽出し、その層位的な量比から降灰層準を推定するという方法をとる必要がある。本概報は、調査区より5箇所のローム層断面を選択し、その分析結果を報告するものである。

1. 分析対象断面と試料

対象とした断面は、調査区の東側より、T5-2南壁、T11-2南壁、T13-1南壁、T15-3南壁、T18-9南壁の合計5箇所である。いずれの地点も、現耕作土または盛土の下位に厚さ1mほどの土壤が確認された。土壤の上半は、黒~墨褐色を呈するいわゆる黒ボク上層に相当し、下半は、褐色を呈するローム層である。なお、T13-1では黒ボク上層が特に厚く認められ、T15-3ではローム層の下位にシルト層および疊混じりの砂質シルト層が確認されている。ここでは、便宜的に、現耕作土および盛土をI層、黒ボク土層をII層、ローム層をIII層、ローム層下位のシルト層をIV層、さらに下位の疊混じり砂質シルト層をV層とし、II層については、色調の違いから、断面によっては細分している。分析用の試料は、II層から各断面の掘り方まで厚さ5cmで連続に採取した。各地点の模式柱状図を、分析結果を示した図1に併記する。

2. 分析方法

ここでは、ローム層中のATに由来する火山ガラスの量比を明らかにすることと、ローム層の母材となっている砂粒の重鉱物組成の層位的な変化も捉え、層序対比指標とする。処理は、ローム層および黒ボク上層を超音波洗浄処理し、泥分を洗い去った後の残渣を細い分けし、重液分離する。結果は、重鉱物組成と軽鉱物中の火山ガラスの量比を偏光顕微鏡下で計数し、その割合をグラフで示す。

3. 結果

各地点の分析結果を図1に示す。各地点とも、火山ガラス比において、バブル型火山ガラスが主に検出された。このバブル型火山ガラスは、その形態と上述の中村・金（2004）による分析例などから、ATに由来すると考えられる。また、バブル型火山ガラスの層位的な量比の差は、地点ごとに異なる様相を呈する。早津（1988）は、土壤中に1枚のテフラに由来する細粒の碎屑物が拡散して混在する

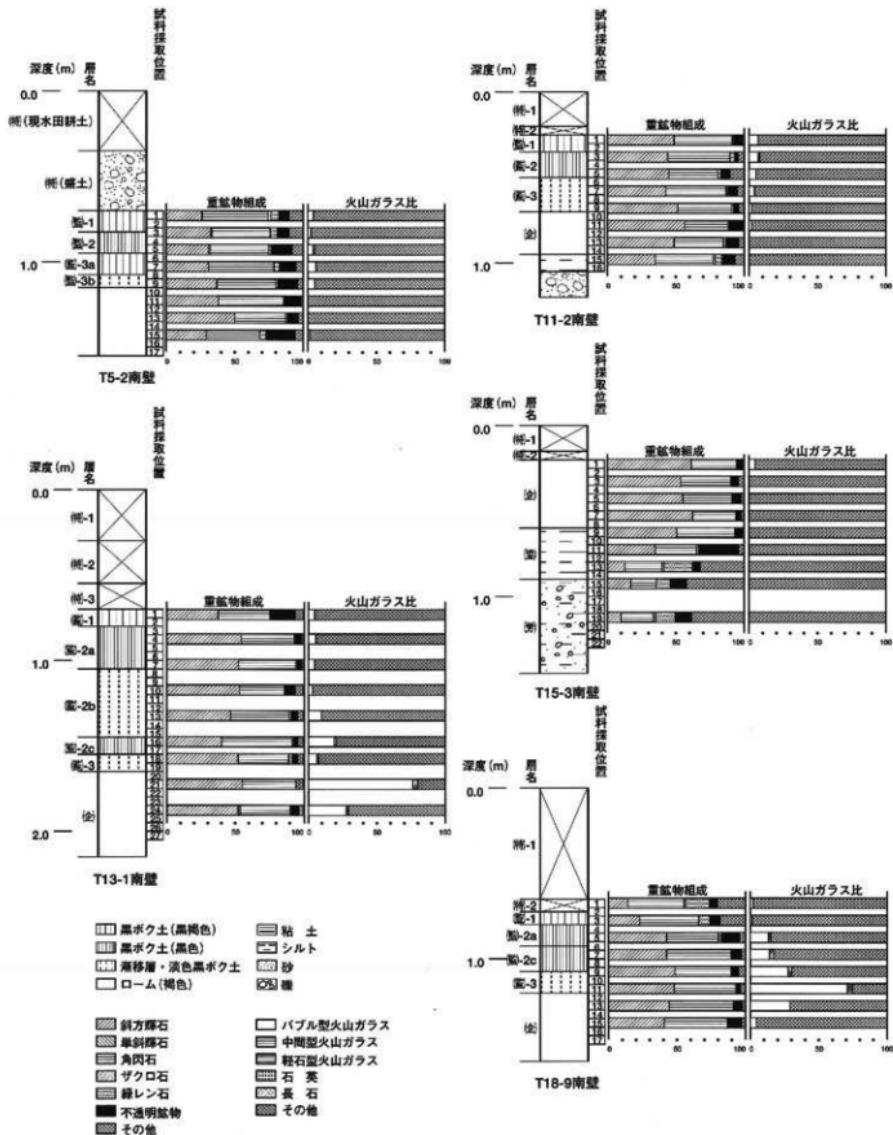


図1. 各地点の重鉱物組成および火山ガラス比

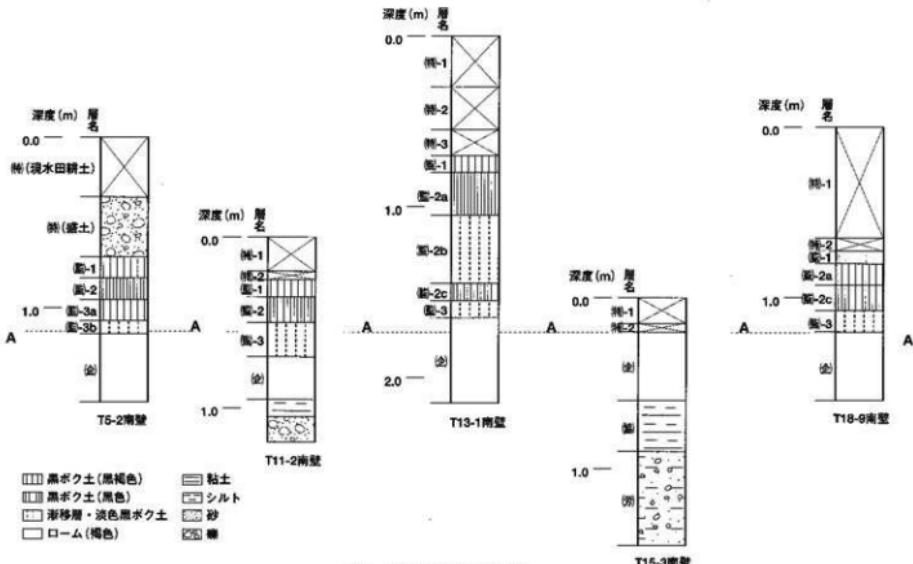


図2. 各地点のAT降灰層準

場合、その碎屑物の最濃集層準の直下が、そのテフラの降灰層準に最も近いことを分析から明らかにした。これに従えば、今回の各地点におけるATの降灰層準は以下の層位が推定される(図2)。

T5-2南壁：II-3 b層とIII層の層界付近

T11-2南壁：II-3層上部

T13-1南壁：III層上部

T15-3南壁：III層最上部あるいは削剥されている可能性もある

T18-9南壁：II-3層とIII層の層界付近

各地点により、各層とATの降灰層準との層位関係は多少のずれがあるが、II層(黒ボク土層)とIII層(ローム層)の層界を挟んで上位と下位にそれぞれ10cmほどの層位の中にATの降灰層準があることは確実である。したがって、調査区におけるローム層のほとんどの層位は、ATの降灰(2.6~2.9万年前:町田・新井, 2003)以前に形成された土壤であると考えられる。

重鉱物組成については、II層からIII層まで斜方輝石と角閃石からなる組成にほとんど変化は認められないが、III層の下部からIV層にかけては、斜方輝石に対する角閃石と不透明鉱物の量比が高い傾向が認められ、IV層下部からV層においては、角閃石と緑レン石を主体とする組成が特徴となる。

引用文献

- 中村洋介・金 幸隆, 2004, ローム層のボーリング掘削に基づく富山県魚津断層南部の第四紀後期における上下変位速度の算出. 地理学評論, 77, 40-52.
- 早津賢治, 1988, テフラおよびテフラ性土壤の堆積機構とテフロクロノロジー - AT にまつわる議論に関係して-. 考古学研究, 34, 18-32.
- 町田 洋・新井房夫, 1976, 広域に分布する火山灰-始良Tn火山灰の発見とその意義-. 科学, 46, 339-347.
- 町田 洋・新井房夫, 2003, 新編 火山灰アトラス, 東京大学出版会, 336p.

写真1



(1) 水橋入部遺跡調査着手前状況（東から）



(2) 上面簡易舗装除去状況（北西から）



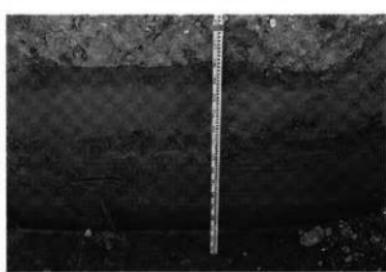
(3) トレッジ機械掘削状況（東から）



(4) T1・T2トレッジ掘削全景（北東から）



(5) T1トレッジ完掘状況（東から）



(6) T1トレッジ西端南壁土層断面（北から）



(7) T2トレッジ完掘状況（東から）



(8) T2トレッジ西端南壁土層断面（北から）

(1)～(8)：水橋入部遺跡

写真2



09)砂子坂遺跡遠景（南東から）



00)砂子坂遺跡遠景（南西から）



01)T1～T4掘削トレンチ全景（北西から）



02)T5～T7掘削トレンチ全景（西から）



03)試掘トレンチ機械掘削状況（南東から）



04)作業員によるトレンチの精査状況（南西から）



05)T1トレンチ完掘状況（東から）

(9)～(15)：砂子坂遺跡



06)T1トレンチ中央北壁土層断面（南から）

写真 3



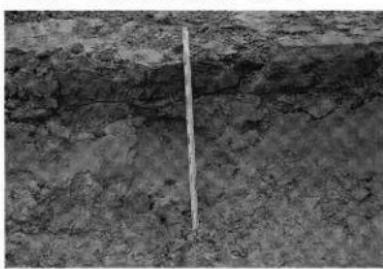
27) T3 トレンチ完掘状況（東から）



28) T3 トレンチ西端北壁土層断面（南から）



29) T6 トレンチ完掘状況（西から）



30) T6 トレンチ西端北壁土層断面（南から）



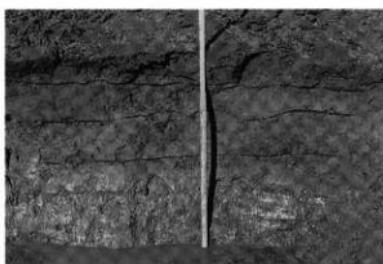
31) 水橋上砂子坂遺跡調査着手前状況（西から）



32) 試掘トレンチ機械掘削状況（東から）



33) T8 トレンチ完掘状況（東から）



34) T8 トレンチ東端北壁土層断面（南から）

37)～38) : 砂子坂遺跡・水橋上砂子坂遺跡



27早月上野遺跡遠景（西から）



28早月上野遺跡遠景（東から）



29試掘トレンチ機械掘削状況（西から）



30試掘トレンチ機械掘削状況（西から）



31試掘トレンチ人力掘削状況（東から）



32東半部試掘トレンチ掘削状況（東から）



33T4～T11トレンチ掘削状況（南西から）



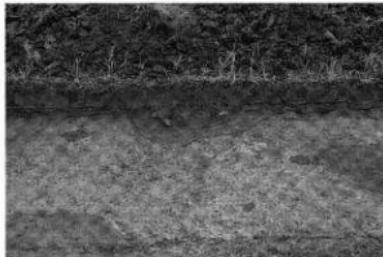
34T13～T16トレンチ掘削状況（東から）

図～図：早月上野遺跡

写真 5



33 T2トレンチ完掘状況（西から）



34 T2トレンチ遺構検出状況（北から）



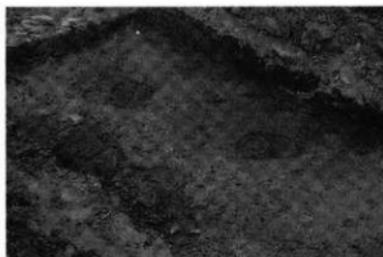
35 T4トレンチ完掘状況（西から）



36 T4トレンチ遺構検出状況（北西から）



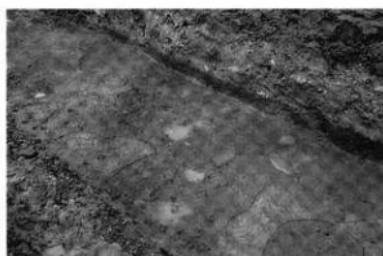
37 T5トレンチ完掘状況（東から）



38 T5トレンチ遺構検出状況（北西から）

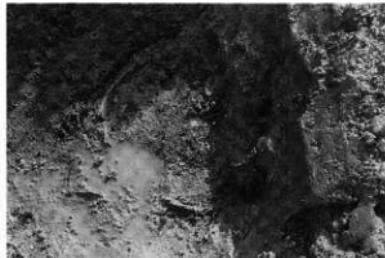


39 T7トレンチ完掘状況（東から）



40 T7トレンチ遺構検出状況（北西から）

33～40：早月上野遺跡



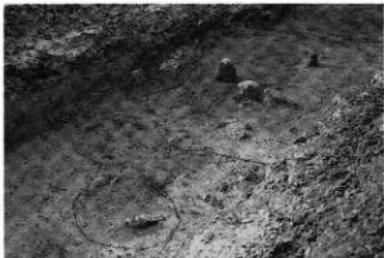
(41) T7トレンチ埋設土器検出状況（東から）



(42) T7トレンチ埋設土器検出状況（北から）



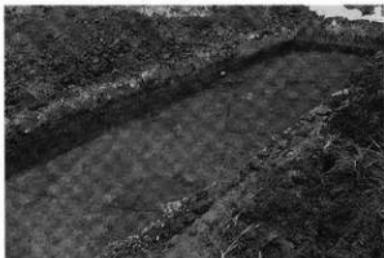
(43) T8トレンチ完掘状況（西から）



(44) T8トレンチ遺構検出状況（北東から）



(45) T9トレンチ完掘状況（南西から）



(46) T9トレンチ遺構検出状況（北東から）



(47) T12トレンチ完掘状況（西から）



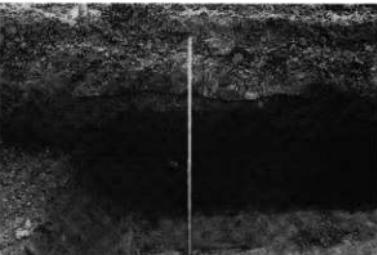
(48) T12トレンチ西端南壁土層断面（北から）

(49)～(58)：早月上野遺跡

写真 7



53) T13 トレンチ完掘状況（東から）



54) T13 トレンチ東端南壁土層断面（北から）



55) T16 トレンチ完掘状況（東から）



56) T16 トレンチ中央南壁土層断面（北から）



57) T18 トレンチ完掘状況（東から）



58) T18 トレンチ西端南壁土層断面（北から）

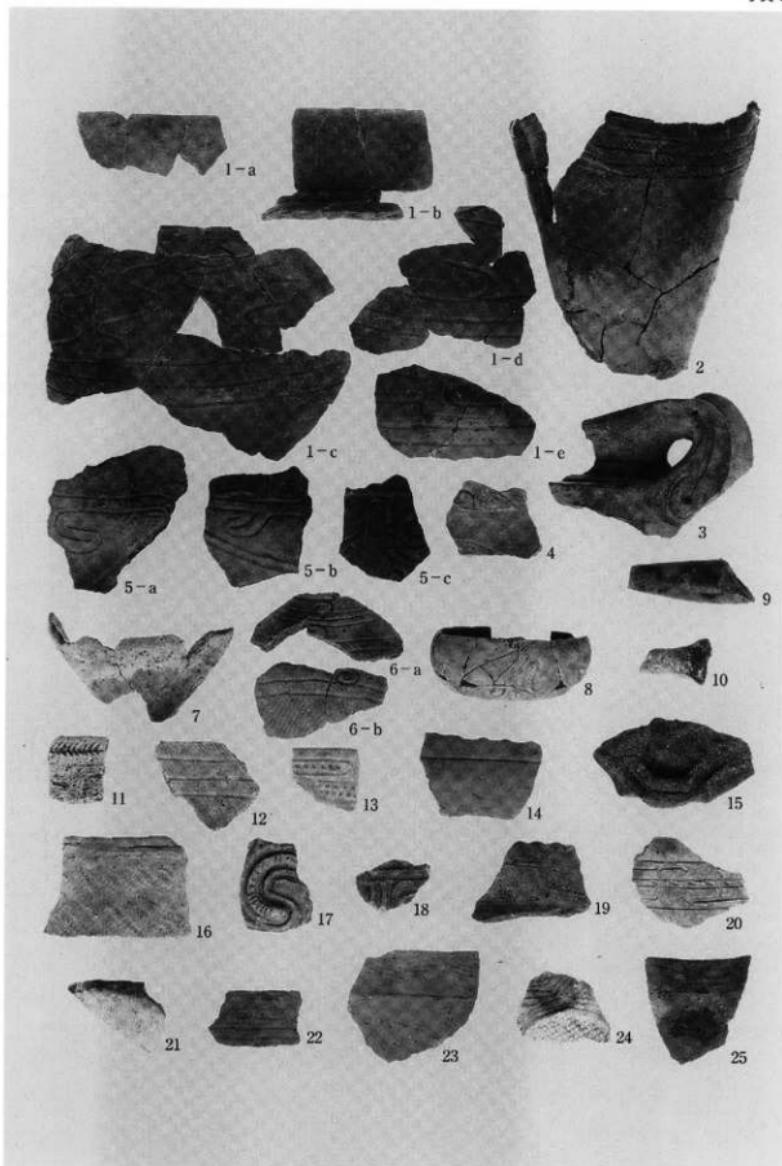


59) 火山灰分析試料採取状況（北西から）



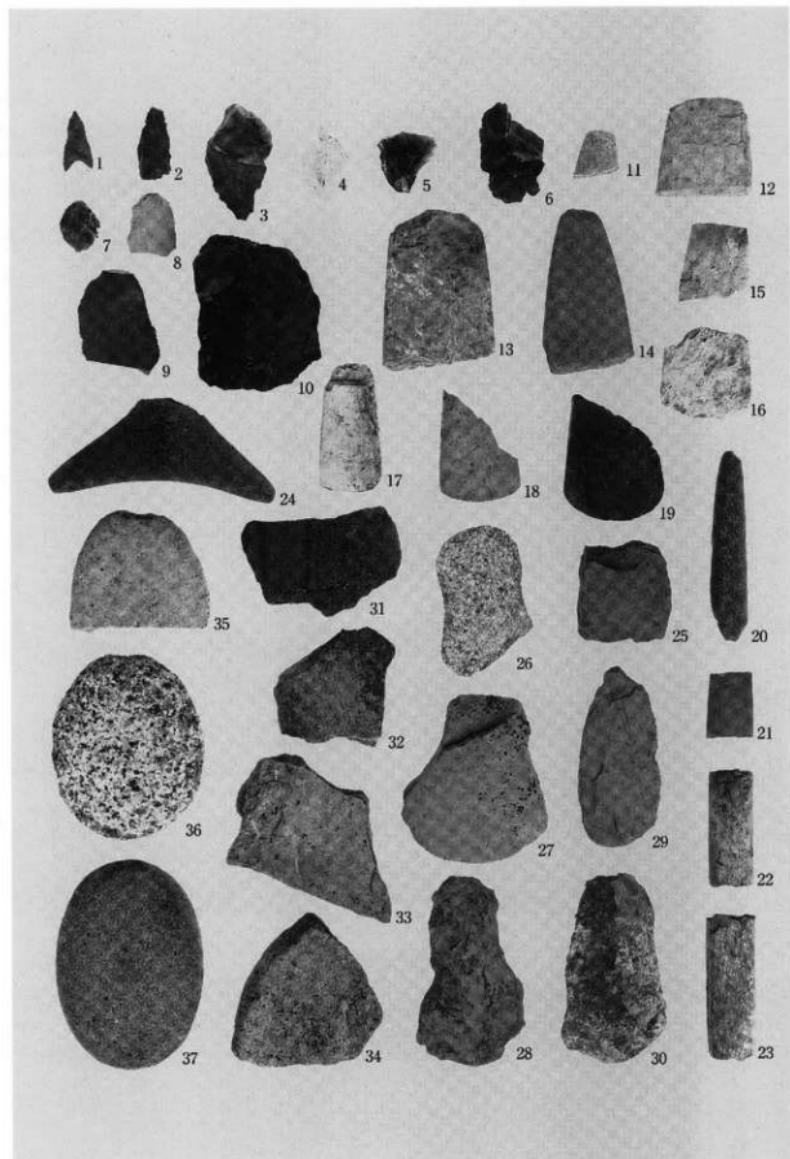
59) 火山灰分析試料採取状況（北西から）

56)～58)：早月上野遺跡



早月上野遺跡出土遺物（縄文土器）

写真9



早月上野遺跡出土遺物（縄文石器）

報告書抄録

ふりがな	ほくりくしんかんせんかんけいまいぞうぶんかざいほうぞううちょうさほうこく							
書名	北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告(6) 水橋入部遺跡・水橋上砂子坂遺跡・砂子坂遺跡・早月上野遺跡							
シリーズ名	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ番号	第33集							
編著者名	森 陸・町山 賢一・藤本 信幸							
編集機関	財団法人富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所							
所在地	〒930-0887 富山県富山市五福4384番1号 TEL076-442-4229							
発行年月日	西暦2006年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	°	'			
水橋入部遺跡	富山市水橋入部町	16201	602	N36°42'31"	E137°17'25"	20051014	45m ²	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
水橋上砂子坂遺跡	富山市下砂子坂	16201	256	N36°43'46"	E137°20'20"	20051020	60m ²	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
砂子坂遺跡	上市町竹鼻	16322	120	N36°43'54"	E137°20'32"	20051017～ 20051020	420m ²	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
早月上野遺跡	魚津市早月上野	16204	064	N36°46'40"	E137°24'59"	20051107～ 20051118	980m ²	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
水橋入部遺跡	—	—	—	—			本調査を必要としない	
水橋上砂子坂遺跡	—	—	—	—			本調査を必要としない	
砂子坂遺跡	—	—	—	—			本調査を必要としない	
早月上野遺跡	集落	縄文時代	堅穴住居	縄文土器・石器			東半分を木闌柵の予定	

富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第33集
北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告(6)

水橋入部遺跡・水橋上砂子坂遺跡・砂子坂遺跡・早月上野遺跡

編集・発行 財団法人富山県文化振興財団

埋蔵文化財調査事務所

〒930-0887 富山市五福4384番1号

TEL 076-442-4229

印 刷 北日本印刷株式会社

〒930-0094 富山市安住町7-36

TEL 076-432-2126